

令和2年度 園評価・関係者評価書

園名 加西市立賀茂幼稚園

1. 教育目標

「こころ豊かに たくましく育つ子ども」 ◎明るく元気な子 ◎みんなと仲よくする子 ◎力いっぱいがんばる子

2. 本年度の重点目標

自ら遊びをみつけ、夢中になって遊ぶ子どもを目指して ー家庭や地域とのつながりを大切にー

3. 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	自己評価・改善の方策
園 運 営	○職員の資質向上 ・実戦的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備	○研修の充実 ・園内で保育内容等について随時検討した。 ・市内外の研究会、研修会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ほとんどが中止となった為、園内研修の充実に努めた。 ○園務の徹底 ・検討部会で決まった事を連絡会や職員会議で共通理解し、計画的に取り組んだ。	A	・研修会はほとんどが中止となった為、即保育に生かせるよう、「コロナ禍における運動遊び」「個別の関わりが必要な園児を含めた音楽療法」という実技研修を取り入れた。来年度も引き続き資質向上のためにできることを検討していきたい。 ・行事、環境等の部会を充実させ、職員会議で共通理解できるような報告を徹底していく。
教 育 課 程	○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分にかかわって展開する生活の工夫 ○子どもの主体性を大切に指導 ○子ども一人一人の発達特性を踏まえた指導方法の工夫	○保育内容の検討と行事の見直し ・コロナ禍でもできる、小動物の飼育や観察、地域の協力による「園内畑」での栽培体験等自然と触れ合える環境を整えた。また、種を蒔き、苗を植え、栽培、収穫、と連続性のある体験活動を重視した。 ・運動会、音楽会、生活発表会等園全体の行事の見直しを図り、感染予防を徹底しながら行ったが、新型コロナウイルスの感染が拡大したため、参観は見送り、DVDを配布した。 ・日々の保育の振り返りを行い、一人一人の「らしさ」を引き出せるよう工夫した。	B	・各クラスで見通しをもった運営ができるように、職員間の報・連・相を徹底する。 ・感染対策を徹底しながら、園内で異年齢交流ができるよう、保育内容、環境等を職員間で話し合い、共通理解しながら、今までにない工夫が必要である。
子 育 て 支 援	○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○一時預かり・預かり保育の実施	・電話相談や、個別に子育て相談を実施し、保護者の思いに寄り添うよう心がけた。 ・感染対策を十分にしながら、こども園ウークでの、未就園児対象の園庭開放を行った。 ○預かり保育 ・家庭的な雰囲気の中で安心して遊べるように、年齢に応じた遊びを工夫した。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、一時預かりの希望に添うことができなかった。	B	・年3回、個別懇談会を実施しているが、その他にも必要に応じて、子育て相談を受け付けている。今年度はコロナ禍だったが、数名の保護者が相談に来られ、子育てについて一緒に考える時間をもつことができた。今後は保護者の方がもっと気軽に相談できるような雰囲気になるよう心がけたい。 ・預かり保育の希望が増え、乳児と幼児の遊ぶ場所を分けるなどして、安全に過ごせるように配慮する。
安 全 管 理 保 健 管 理	○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底と活用 ・防犯、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施	○安全点検実施 ・点検簿に記入し、月1回、市に提出した。 ・危機管理マニュアルを作成し職員の共通理解を徹底した。 ・月1回の避難訓練を実施し、避難訓練簿を作成した。 ・防犯、防災の意識の向上をはかった。 ○交通安全教室を年1回実施。 ○健康診断(内科健診、歯科健診) ・健康観察カードを作成し、年間を通して園と家庭で園児の健康管理を行った。 ・新型コロナウイルス感染症についての注意喚起の手紙を随時配布した。	A	・園舎、遊具共に年数が経っているので、「安全」について、全職員が常に意識していく必要がある。 ・交通安全教室等、体験学習からの学びの機会を設けることで、子ども自身が意識できるようしていく。 ・毎日の健康観察カードの記入を保護者に依頼するとともに、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、看護師による全園児の検温、体調確認を行い、必要があれば、すぐに連絡できる体制を整える事が必要である。
道 徳 ・ 人 権 教 育	○子どもの体験や経験を通して、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気づきを育む環境の工夫	○植物や小動物等の、栽培、飼育等を通しての命の教育実施。 ・月1回の誕生会で、誕生の喜びや、命のつながり等の教育実施。 ・異年齢交流を通して、思いやりや優しさの感情の育成。 ・絵本、紙芝居、ビデオ等の視聴覚教材を取り入れ、豊かな感性の育成。 ・地域の人や周りの自然等とのふれあいがら喜びを感じられる環境の工夫。	B	・植物や生き物を育てる中で、命の大切さを伝えていく。 ・各クラスで毎月誕生会を行い、命のつながりを年齢に応じて伝えていく。 ・コロナ禍で感染対策を取りながら、異年齢交流を行い、自尊感情を育んでいけるよう配慮する。
特 別 支 援 教 育	○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	○専門機関と連携し、具体的なアドバイスを受けた。 ・途切れない適切な支援実施のために、支援児ファイルを作成した。 ・家庭(両親)との、丁寧な連携を心掛けた。 ・幼小連絡会で丁寧な引き継ぎを行った。	A	・今年度は4歳児支援児4名に対して、担当職員3名、3歳児支援児1名に対して担当職員1名で対応した。一人一人の姿が違うので、しっかりと支援できるように人員の確保は必要不可欠である。 ・スムーズな就学や進級ができるよう、全職員が共通理解して一人一人に関わり、支援する事が必要である。
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○幼児園・小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流	○園評価、外部評価実施、公表(年1回)。 ・園便り、クラス便り等による情報発信。 ・個別懇談実施(年3回) ・コロナ禍で参観出来ない為、日々の園生活の様子が不透明にならないよう、「その日の様子」を降園時に掲示し、保護者に伝えた。 ・英語であそぼ(年7回) ・5歳児お別れ遠足実施。行きたい場所をクラスで相談し、行き先を決定した。(レールバス見学、消防車庫、新型車両見学、鶴野飛行場跡堂電改等説明を聞き見学) ・賀茂小学校裏山散歩(3~5歳児)	B	・コロナ禍で保護者への情報発信が、スムーズにできない時期もあったが、「葉メ(一斉メール)」を使い、緊急時の対応は、できるようなった。 ・クラスだよりの発行の仕方は、それぞれのクラスの担任の思いもあり、今後、回数、内容等を検討する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度は「中止」となったことが大変多く、職員も感染対策を取りながら、手探りで安全な保育を心がけた。 ・今後は、安心・安全を心にとめながら、様々な場面において、創意工夫が必要だと考える。

4. 自己評価方法の適切さについての関係者評価

・評価は適切だと思います。
・コロナの大変な時期でしたが、先生方がよく頑張っておられると思いました。
・小規模園である特色を生かして、次年度も頑張りたいと思います。

5. 評価の観点ごとの関係者評価

学校園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・他の園の良い所も取り入れていくことができれば良いと思います。 ・研修の成果やそれによって子ども達がどのように変わったかなどの記入があればかなりやすいと思いました。 ・園児のためにと、いろいろな研修を受けられる先生方は大変だなと感じました。でも保護者としては大変ありがたく思います。
・命の大切さを伝える保育をいただいていることは良いことと思いました。 ・コロナ禍で休園期間があり、できない事もたくさんあったと思いますが、送付していただいたDVDを観せていただき、子ども達の一年の成長がよくわかりました。
・必要に応じた子育て相談や預かり保育の希望の増加など、先生方の勤務には支障がないかと心配です。
・園舎防犯カメラに「防犯カメラ作動中」など、抑止力のために表示することもいいのではないのでしょうか。 ・遊具の老朽化について、点検を行っていただけますが、設置年数や点検された日にちなど表示しておく、一目で見て分かり安全管理がしやすいと思います。
・保護者から、「いじわるされている」といった意見がありましたが、昔は子ども同士の事だから・・・とそこまで言わなかった事だと思いますが、今は対応が難しくなってきましたね。でも少しは嫌な思いをする経験も大事だと思います。保護者の思いも汲みながら保護者支援をお願いします。
・支援児一人一人の状況を伝え合う場をもって、職員同士が共通理解し合いながら引き続き丁寧な関わりをお願いします。
・「一斉メール」の文章について、受け取った人の読み取り方について戸惑う方もおられると思いますので、定型文があった方が良いのではないかと思います。 ・クラスだよりが1回になったのなら、保護者の方にもそのように通知された方が不透明さがなくなるのではないのでしょうか。不透明さが不快感にならないように。せっかく先生方が頑張っておられるのに、互いの意思疎通ができない状態ではもったいないと思います。